


ふりがな 氏名	ひがし みずき <b>東 瑞希</b>	都道府県	鹿児島	
所属/肩書	鹿児島大学大学院教育学研究科 理数・環境系コース 木材加工学研究室			
私のESD活動	誰もが文化的生活を営むことによって環境保全に繋る、 需要と供給が釣り合う豊かな循環型社会を目指したい			

活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）

持続可能な社会に向け、地下資源の節約や国外における森林伐採の抑制、また地上での炭素保管庫であり、国土を支える役目を担う森林の保全が求められています。つまり、地元の人工林材の活用が望まれている今、その木材の需要を増やすことが最優先されると考えます。わたしたちの研究室では、木材やその利用の意義について興味を持ってもらい、「木材の良さを活かしたい」という思考に導く「木育」活動の提案と実践を行っております。

下記 URL は地元の県勢番組において、県内の木材活用事例のひとつとして鹿児島大学附属幼稚園における木育イベントを取りあげていただいたときの動画です。子どもたちが木材で遊び、ものづくりをする楽しさを友達と共有し、木材のお土産と木育推進のカードが保護者に伝わることにより、木材利用について考える人々が増えると考えています。

去年私が卒業論文として取り組んだのは『ソーシャルデザインとしての「木育」の導入 -木育パークレットの設計・製作-』です。パークレットという、サンフランシスコ発祥の路上公園を参考に、持続可能な社会に必要なコミュニティの創出を目標とする、アンケートやワークショップの手法を用いた場づくりを考案しました。しかし個人で取り組んだこともあり、学内の農園における一対のベンチの製作・設置に留まりました。2016年3月に開催された第66回日本木材学会大会にて、初めてポスター発表を行いました。以後活動を継続できなかったことが悔やまれます。同学会において、名古屋で類似の活動が成功している様子を伺うことができましたが、より明確な仕組みと準備、そして周囲の協力を得て実践すべきであったと痛感しています。

○南日本放送「ふるさとかごしま」-「かごしま材」をもっと身近に！- 2016年6月4日放送動画

<https://www.youtube.com/watch?v=iiaJ5c-yiNI&feature=youtu.be>

ESD活動をさらに深めるために、今後どのような活動を展開していこうと考えていますか？またESD全体（地域や日本国内、国際）の発展にどのように貢献したいと思えますか？

木材資源確保のためにはあつたはずの林業は、その需要が激減してしまったために、荒れた土壌の管理となっているように感じます。また、生活の中で必要なものはなんでも安価で入手できるため、ものづくりの機会が減っています。このままでは日本の豊富な森林資源は無駄になってしまい、人々は自らの手で新しいものを作り出せることを忘れてしまいます。

修士論文においては『学内におけるESDルームの設置(仮)』と題し、木育を中心とした環境学習を行うための特別教室を構想し、義務教育である小中学校において導入できないかを検討しています。様々な分野と持続可能な社会とを、関連して考えることができ、生徒が年々減少しているものづくりの時間を自主的に補うことができるような、学校内にある憩いの場を提案していくことが目標です。まずは大学内での実現に挑戦します。

将来は、各地域にある昔ながらのものづくりの技術や、新しい取り組みについての周知・継承が行われ、さらに地域の素材を用いて表現活動を行うことができるような場に携わりたいと考えております。誰もが日常生活を豊かにすることを意識し、かつ自然環境とのつながりを意識することによって、循環型の持続可能な社会を実現させたいです。そのための知識や技能は未だ持たないため、まず県内外での取り組みを知り、地元を始め他県や国外における環境や歴史、技術の違いについて学ぶべきだと考えています。